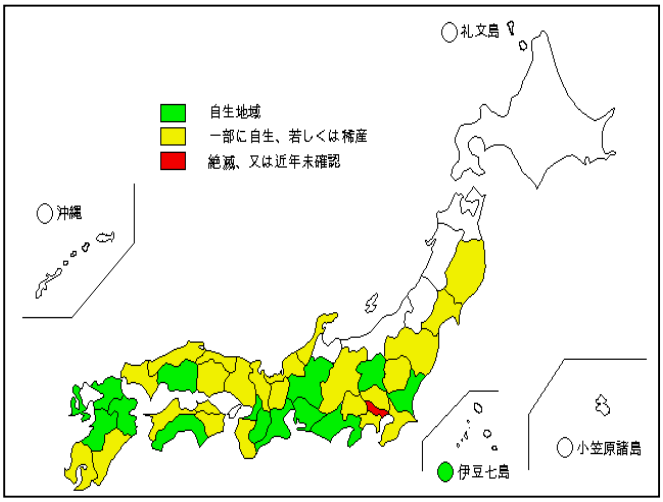
#79

カヤラン

Sarcochilus japonicus

カヤラン（愛知県豊田市　09.5/1）

岩手県以南に自生する小型の着生蘭です。渓流沿いの樹木に下向きにぶら下がるように着生します。4～5月に鮮やかな黄色の花を咲かせます。草丈は10mm～100mmほどで、花の時期以外は地味で目立ちませんが、ちょこんとぶら下がる姿やまんまるの蕾、鮮やかな黄色でころころとした肉厚の花弁など非常にかわいらしく、私の最も好きな蘭の一つです。樹木の中でも特に梅や桜、杉を好みます。梅や桜に着生する場合は日当たりが良く乾燥気味な為か、締まって赤みを帯びた姿になり、べったりと樹幹に張り付くように着生し、しばしば群生します。多分バラ科の樹木は表面がでこぼこしていて、種子が引っかかりやすく、実生苗が育ちやすいのだと思われます。



渓流沿いの樹木に着生します。

細枝に着生するカヤラン(愛知県東栄町09.05/1)

杉の場合は樹幹ではなく、細い枝に根の力だけでぶら下がって着生します。杉に着くカヤランは緑色が濃く、やや間延びし大型になることが多いです。杉は常緑なので、より光合成の効率を高めるためと思われます。同じ着生蘭でもセッコクやムギランのように岸壁には着生せず、必ず生きた木にのみ着生します。ウメノキゴケの育つような、風通しがよく湿度が高い場所を好み、ヨウラクランやクモラン、ムギラン、マメヅタランなどとの共生もしばしば見られます。当地中部地方では渓流沿いの杉林を歩いていると、杉の小枝と一緒によくカヤランが落ちていますので、自生量はラン科の中では多いほうだと思います。

Document and photo by LittleFlower 2009

ただ、大変かわいらしい蘭なので、道沿いの人の手に届くところのものは盗掘されやすいようで、高いところに着生している姿が目立ちます。湿度、通風を非常に好むため、住宅地での栽培は困難です。たまに山野草店やオークションなどで販売されていることもありますが、本種は商用増殖はされていないので、100%盗掘品です。しかも、素焼き鉢にミズゴケを盛って、株を上向きに植えて販売していることも多く、ただ盗って売って枯らすだけという非常に悲しい売り方をされています。関東以南の山岳部の渓流沿いに住まれていて、広いお庭に立派な樹木がある方ならば大切に育て、自然実生による増殖も期待できますが、お店やオークションでの購入は何卒お控え下さい。あくまで悪いのは小銭のために大量に盗掘する心無い方ではありますが、買う人がいると「売れる商品」と味をしめ、盗掘に拍車をかけてしまいます。

桜の樹幹に着生したカヤラン(愛知県豊田市09.05/1)

花のアップ(愛知県豊田市09.05/1)

もし恵まれた環境にお住まいでどうしても本種をお育てになりたいのであれば、知人からお譲り頂くか(本種は株繁殖はせず100%実生更新なので難しそうですが)、林道で落ちてしまった株を見つけたら、拾ってお育てになっても罰は当たらないと思います。地面に落ちた着生蘭は遅かれ早かれ必ず枯死してしまう運命です。落ちていても盗掘は盗掘なのでほうっておくのが自然という考え方もありますが、たとえ人の手によってでも、再度花を咲かせることができるのであれば素敵なことだと思います。これはあくまで本人のモラルの問題なので、花を愛する皆さまもどうすればいつまでも自生の蘭が見られるか、ぜひ考え行動して頂ければ幸いです。

桜の樹幹に着生したカヤラン(愛知県豊田市09.05/1)

カヤランの実生芽(愛知県豊田市09.05/1)

Document and photo by LittleFlower 2009